

ブドウ「サニールージュ」の果房伸長促進処理による摘粒作業の省力化

早生品種「サニールージュ」は甘味が強く、「デラウェア」よりも大粒で、作りやすい品種ですが、軸長が短く果粒が密着しすぎるため、摘粒作業に多大な労力がかかってしまうことが問題となっています。そこで、果房伸長処理による摘粒作業の省力化技術を開発しました。

☆ 技術の概要

1. 「サニールージュ」の展葉 5 枚頃にジベレリン 5 ppm 溶液を花穂に噴霧する果房伸長処理と開花盛期 3～5 日後のジベレリン 25ppm+ホルククロルフェニユロン 10ppm 溶液への花穂浸漬処理を行いますと、摘粒作業時間を約 40%削減できます。
2. 果房伸長処理すると、摘粒作業にかかる時間が慣行処理区の約 60%に抑えられます(表 1)。
3. 「果房伸長処理により軸の伸びは満開時にかけて促進され、満開 3～5 日後のジベレリン 1 回処理以降、収穫期までの伸びは小さくなり、収穫時の軸の長さは慣行処理より長くなる(図 1、図 2)。

表 1 摘粒作業時間 (2009、2010 年平均)

試験区	10 果房あたり 摘粒作業時間	10a 換算	慣行処理区作業時間 に対する比率
果房伸長処理区	3 分 47 秒	22 時間 42 分	60
慣行処理区	6 分 17 秒	37 時間 45 分	100

注 1) 慣行処理区は、ジベレリン 25ppm 溶液に満開期、満開 14 日後の 2 回花穂 (果房) 浸漬処理

注 2) 各処理区とも、ジベレリン処理は 2 回までの作業で終わるように処理

注 3) 10a 換算摘粒時間は、一粒重 6g の果粒を 55 粒つけた果房を、10a あたり 1.2t 収穫すると仮定し、3,600

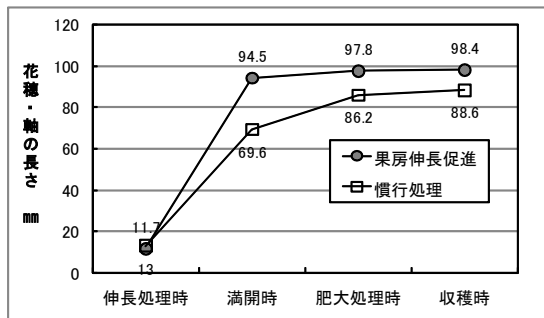


図 1 生育ステージごとの花穂・軸の長さ (2008 年)



図 2 果房伸長促進処理した果房

☆ 活用面での留意点

1. 慣行処理と同様の、支肩を除去するだけの花穂整形では大房すぎるため、段を少なく、満開時に軸の長さを、ほぼ最終目標に近い 8 cm～9 cm 程度とします。
2. ジベレリン 5 ppm を花穂に噴霧する際に、翌年の結果枝を発芽させる新梢基部の芽にジベレリン溶液が付着すると花芽の着生が減少するため、散布に注意します。
3. 軸の伸長が促進されると果粒が垂れた房形になりやすいため、摘粒時に整えます。
4. 詳細については、宮崎県総合農業試験場 (電話: 0985 - 73 - 7099) にお問い合わせください。(果樹研究所 企画管理部 研究調整役 岩波 徹)